
しゃべってつくる
AIマッハ新書
AI使って最短1時間！
超爆速で出版しよう！
本を読みたくない人向けの
PDF・Skills付き！

忙しい人は、この見開きだけ

ようこそ。いきなりですが、この本は最後まで読まなくて大丈夫です。やることは五つ。上から順に AI へ頼んでいけば、一冊できあがります。



話す、書く、形にする、届ける、使う。AI マッハ新書の最短ルート。

01 **話す** 本にしたいネタを、AI に向かってしゃべる。

02 **書く** 執筆・取材・編集は、Skills を持たせた AI に任せる。

03 **形にする** 表紙と挿絵を画像生成。Vivliostyle で PDF に組む。

04 **届ける** 紹介ページと、本 + Skills の配布セットを作る。

05 **使う** 読者もこの本を AI に渡す。読まずに、次の一冊へ。

裏表紙の QR か特設ページで、全部入りキットを受け取れます。展開したフォルダを Codex で開いたら、最初の一言はこれ。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

START-HERE.md と skills/make-mach-book/SKILL.md を読んで、AIマッハ新書を作ろう。これから本のネタを話します。足りないことだけ、まとめて質問してください。企画と目次を作り、Skillsで執筆・編集・取材を進めてください。表紙と挿絵も生成し、VivliostyleでPDFにしてください。紹介ページと配布データも欲しいです。ボクが話していない体験は、作らずに聞いてください。

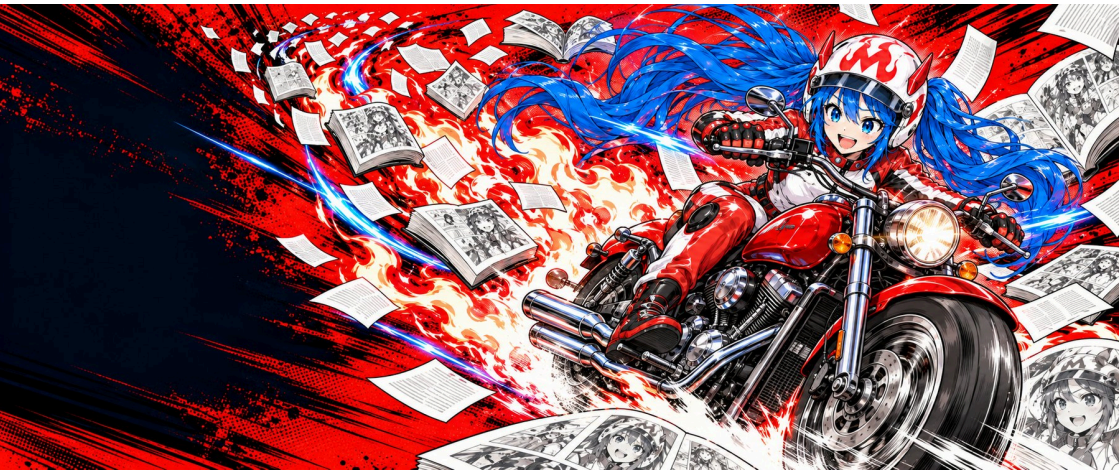
最初のゴールは「開けるPDFが一冊」。細かい設定は、AIと話しながら決めればいい。

「最短10分」の条件

道具と素材がそろっている場合の目標です。初回のセットアップ、販売サイトの審査、公開の待ち時間は含みません。

はじめに

12 時間じゃ、まだ遅い



AI マッハちゃん、赤いバイクで本を引き連れて爆走中。

本を書きたい。でも、原稿を書くのがしんどい。

しかも本は、原稿だけでは終わりません。編集があって、表紙があって、ページを組む作業がある。話したいことは山ほどあるのに、本になるまでがやたら遠い。

そこで思い出したのが、GOROman さんが提唱した「マッハ新書」です。思いついたことを一気に書いて、電子書籍として出してしまう。BOOTH の特集では、執筆から 12 時間で出版するスピード感が紹介されていました。出した後に直せるし、読者の反応を見て育てられる。熱いうちに本にする、という発想です。

最高です。最高なんですが、よく見ると作業しているのは全部人間なんですよね。取材、執筆、編集、デザイン、校正、組版。全部自分でやったら、そりゃ12時間はかかる。

マッハではあるものの、まだまだ人間の限界に縛られていた。

じゃあ、しゃべる以外は全部AIに任せたらどうなるか。原稿を書いてもらい、絵を描いてもらい、ページを組んでもらう。著者は横で「これいい！」「そこは違う！」と騒ぐ係。しゃべりながら一冊作る、いわば**バイブ出版**です。



人間はしゃべるだけ。手を動かすのはワタシたち。速さの桁、変えにいくよ！

道具と素材がそろっていれば、最短10分で一冊。売り場までつないで、1時間で出版まで。この本は、その作り方を道具ごと渡すための、AI時代の超超ハイパー発信書です。

使う道具は、4つだけ

名前がいきなり四つ出てきます。でも覚えなくて平気です。キットごとAIに渡して「これで作って」と頼めば、道具のほうが勝手に動きます。

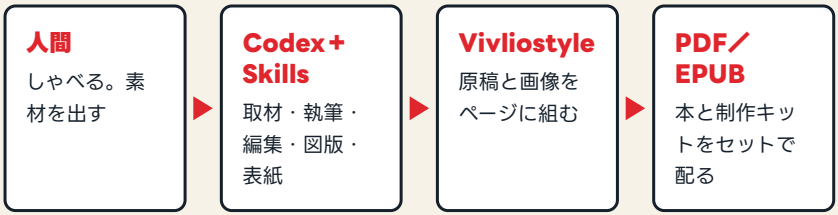
Codex
制作の相棒。原稿を書くだけでなく、ファイルを作り、組版の道具まで動かしてくれる。

Vivliostyle
文章と画像を、CSS（見た目の設定）でページに並べてPDFにする組版ツール。

Markdown
原稿の保存形式。「#」で見出し、くらいの簡単な記号で書けるテキスト。

Skills
AIに渡す仕事の手順書。書く、直す、絵を作る、組む。コツを入れて必要な時に読ませる。

この本ができるまで



画像生成で絵を作り、図の文字と線はCSSで正確に組む。

「見出しをもっと大きく」「余白を広く」と言えば、CodexがCSSを書き換えて本を出し直してくれます。原稿を直して出力し直せば、PDFも、文字サイズを変えて読めるEPUBも一緒に新しくなる。人間が覚えることは、ほぼありません。

この本は、読まなくていい

本を作るのは速くなった。じゃあ、読むほうは？

本の最大の弱点は、読まないと使えないところです。買った瞬間に満足して、積んだままの本。ありますよね。やりたいことはある。でも、読むのがかったるい。

だったら、本ごとAIに渡してしまえばいい。



PDF・本文・Skillsを、まとめてAIへ。

この本には、本文データとSkillsが付いています。キットをAIに渡して「この方法で自分の本を作りたい」と頼めば、AIが必要なところを読んで、足りないことだけ聞いてくる。読み終わるのを待たずに、作り始められます。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

AIマッハ新書を作ろう。作りたい本の話をします。足りないことだけ聞いて、制作を進めてください。

もちろん、面白そうなページは読んでください。仕組みが気になったら読む。絵だけ眺める。どれも大歓迎です。「全部覚えてから作る」という順番を飛ばせる、というだけの話です。

＋ Skillsは自動では入らない

PDFをAIに見せただけでは、Skillsは登録されません。キットの入口にあるSTART-HERE.mdに、AIに何を読ませるかが書いてあります。まずはそこから。



マンガで分かるAIマッハ新書。話す、作る、確かめる、使う。

目次

01	著者は、しゃべるだけ	10
02	取材と構成は、AIの仕事	15
03	書くのはAI、声はボク	20
04	CSSで、ムック本に組む	25
05	表紙も挿絵も、生成で描く	32
06	読ませずに渡す。売り場へつなぐ	40
07	紙の本にもしちゃう	47
08	コンビニコピー本から、この本へ	54
付録	次の一冊に持っていく道具箱	60

詰まったら、その章だけ開く

ネタが出ない
第1章「著者は、しゃべるだけ」

自分の文章にならない
第3章「書くのはAI、声はボク」

紙面がダサい
第4章「CSSで、ムック本に組む」

人に渡したい
第6章と第7章。販売と紙の本



CHAPTER 01

01 著者は、しゃべるだけ

一冊分の原稿を用意する必要はありません。必要なのは「これ、誰かに話したいな」というネタ一つ。あとはマイクに向かって、好きなだけしゃべります。

この章でできること

- ✓ 本にするネタを一つ決める
- ✓ 録音か音声入力で、とにかく話す
- ✓ 間違えたくない名前と数字だけ、メモで添える

1-1 ネタは一つでいい

最初から一冊分しゃべろうとすると、たぶん三分で黙ります。ボクは黙りました。

だから、ネタは一つで十分です。最近作ったもの。人によく聞かれること。自分なりに工夫しているやり方。飲み会でつい熱く語ってしまう話。そういうのを一つだけ出します。

この本の場合は「AIで本を作った。その作り方も本にしたい」でした。章立ても、ページ数も、何も決まっていない状態です。それでも、ちゃんと始められました。



目次なんて後でいいよ。ワタシが作るから！

話す相手を一人思い浮かべると、急にしゃべりやすくなります。Codexを毎日触っている友達なのか。AIは使うけど、本なんて出したことない人なのか。相手が変われば、最初に見せたいものも変わります。

立派な構成は後回し。「これ、あの人に教えたいな」をそのままAIへ投げましょう。

1-2 録音でも、音声入力でもいい

後で声を聞き直したいなら録音。すぐ原稿に進みたいなら音声入力。慣れているほうでOKです。

録音を残しておくと、文字起こしが間違ったときに戻れます。特に人の名前や製品名は、ものすごい勢いで聞き間違えられます。大事な固有名詞だけ、文字で補っておくと安心です。

音声入力のテキストしかないときは、それを「元の発言」として保存します。AIが整えた原稿で上書きしないのがコツ。「あの言い回し、残しておけばよかった……」と後悔したときに、ちゃんと戻れます。

残しておく3つのファイル

元の声	文字起こし	原稿
話した音声。いじらずに保存	聞き取った言葉。怪しい所に印	読むための文章。元の発言へ戻れる

ちなみに、10分ぴったり話す必要はありません。話が出たら渡す。昔書いたメモがあれば、それも渡す。手元にある材料から始めましょう。

1-3 ベラベラしゃべって、AIに片付けてもらう

ボクがやりたかったのは、ベラベラしゃべった音声を、そのままどんどん本にすることでした。

話の途中で表紙の話が混ざってもいい。印刷の話に脱線してもいい。とにかく全部出す。順番を整えるのは、AIの仕事です。

しゃべった内容が、本の設計図になる

しゃべったこと

「なんかさ、しゃべった音声からどんどん本ができたら最高じゃない？作り方も付けて配りたいんだよね。読んだ人も一冊作れるように」

→

AIの整理

作りたいもの　しゃべった材料から本を作る仕組み。**渡したいもの**　作り方の本と、そのまま使えるSkills。**読者の次の行動**　自分の話で一冊作る。

著者が最初からうまく説明する必要はありません。整理はAIに頼めばいい。

▶ AIにそのまま言う　COPY OK

この話を「作りたいもの」「読者」「読者にしてほしいこと」に整理してください。決まっていないところだけ質問してください。

整理された結果がズレていたら「そこじゃない」と返すだけ。長い原稿ができる前なので、何度ひっくり返しても誰も困りません。

1-4 名前と数字だけは、置いていく

勢いでしゃべっても、間違えると困る所はあります。人物名、金額、時期。それから、公開したくない話。

「この名前はこう書く」「この金額は当時のもの」「ここは載せないで」。短いメモを添えておけば、AIもちゃんと扱いを判断してくれます。

！ 「たしか」を消させない

うろ覚えのことは、うろ覚えだと伝えましょう。AIが「たしか」を消すと、いつの間にか断言している文章ができあがります。確かめたいことは、調べる仕事として別に頼みます。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

発言は元のまま保存してください。名前や数字で曖昧なところを拾い、質問をまとめてください。公開しないと伝えた話は原稿に入れないでください。

この章のまとめ

- ✓ ネタは一つ。**相手を一人**思い浮かべて話す
- ✓ 元の声・文字起こし・原稿は**別ファイル**で残す
- ✓ 整理はAIに任せて、ズレたら「そこじゃない」
- ✓ 名前・数字・非公開の話だけは、メモで渡す



CHAPTER 02

02 取材と構成は、AIの仕事

しゃべった材料が集まったら、次は本の形を決めます。ここでAIは、編集者と取材記者を兼任します。著者は、聞かれたことに答えるだけ。

この章でできること

- ✓ 「誰が何をできる本か」を一枚にする
- ✓ AIに聞き役をやってもらい、話し忘れを拾う
- ✓ 目次と一緒に、絵を置く場所まで決める

2-1 まず、一枚の企画にする

材料が出たら、AIに本の形を考えてもらいます。ここで欲しいのは分厚い企画書ではありません。「誰が、何をできるようになる本か」が一目で分かる一枚です。

この本なら、こうなります。

> **★ この本の一行企画**
>
> 本を出したことがない人が、自分の話から電子書籍を作れる。

一行が決まると、どんな説明や作例が必要かも見えてきます。逆に、ここがフワッとしたまま書き始めると、あとで「で、この本は何の本？」と自分に聞くことになります。ボクは聞きました。

完成物もここで決めておきます。PDFだけか。EPUBも出すか。紙の本まで作るか。ゴールが分かると、AIの動きが一気に速くなります。

> **＋ 文字数は、必要な分だけ**
>
> ページを埋めるために説明を足すより、試したくなる作例を一つ増やしたほうが、本は面白くなります。

2-2 AIに、聞き役をやってもらう

自分では当たり前すぎて言わなかったこと。読者には、それが分からない。その穴を見つけるのが取材です。

最初の取材相手は、あなた自身。「何を使ったの？」「どこでつまずいた？」「初めての人なら何から始める？」。AIに質問してもらうと、話し忘れていた材料がボロボロ出てきます。

たとえば、こんな感じで始まる

AI

AI
誰向けの本ですか。使える素材はありますか。最初はPDFにしますか。

ボク
AIは使うけど、本は出したことがない人向け。しゃべったメモと、前に作ったコピー本がある。まずPDFで！



AI

AI
では、最初に一冊作る流れを前半に置きましょう。印刷の話は後半にまとめます。

ただし、質問を一個ずつ出されると、そのたびに手が止まります。「必要な質問は、まとめて出して」と最初に頼んでおきましょう。すでに話したことは、発言の記録から拾ってもらいます。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

この本の取材をしてください。質問は一つずつではなく、まとめて出してください。すでに話した内容は発言記録から拾い、聞き直さないでください。

2-3 調べものは、AIに行ってもらう

質問には二種類あります。

本人にしか答えられない

「初めて印刷したとき、どう感じた？」

→

調べれば分かる

「いまの入稿データの上限は？」

公式サイトで分かることはAIが調べる。本人の経験は本人に聞く。この分担にしておけば、著者が質問のたびに検索の旅へ出かけずに済みます。

調べた情報には、出典と確認日を付けてもらいます。料金や容量は、わりと平気で変わります。更新するときに「どのページを、いつ見たか」が分かると本当に助かります。

！ 体験談は、調べても出てこない

「初めて本を手にして感動した」みたいな話を、AIが勝手に書き足してきたら要注意です。語ったことと、調べたこと。その区別もAIに管理させましょう。

2-4 目次と一緒に、絵の場所も決める

章のタイトルだけが並んだ目次では、どんな本になるのか想像しにくい。そこで、目次を作るときに「どこにどんな絵を置くか」も一緒に決めてもらいます。

しゃべる場面

話した言葉が原稿に変わるページ

表紙づくり

AIマッハちゃんが表紙を描くページ

紙を折る

A4を二つ折りにしてA5にするページ

説明したいことと絵がつながると、ページをめくる楽しみが生まれます。文字だけのページが何枚も続く本は、ちょっとつらい。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

目次と図版の計画を一緒に作ってください。各章で読者が何を試せるか、どこにどんな絵を置くかも書いてください。文字だけのページが続かないようにしてください。

「この章いらない」「ここはマンガで見たい」。本文を書く前なら、目次をいじるだけで全部試せます。遠慮せずに注文しましょう。



書き始める前の注文は、実質タダ！　いっぱい言って！

この章のまとめ

- ✓ 最初に作るのは、**一行で言える企画**
- ✓ 質問は**まとめて**出してもらう
- ✓ 公式情報はAIが調べる。体験は本人が話す
- ✓ 目次を作るとき、**絵の場所**も決めてしまう



CHAPTER 03

03 書くのはAI、声はボク

いよいよ原稿です。書くのはAI。でも、読んだ人に「この人の本だ」と感じてもらうには、あなたの声が必要です。任せるところと、渡すところを分けましょう。

この章でできること

- ✓ 口調の見本を渡して、まず一節だけ書いてもらう
- ✓ 勢いのある言い方を、勝手に上品にさせない
- ✓ 編集と校正を、順番に頼む

3-1 書くのは任せる。口調は渡す

発言メモ、企画、目次をAIに渡して、原稿を書いてもらいます。ただし、いきなり全部は頼みません。まず一節だけ。

その一節を読んで、「自分が言いそうな文章か」を確かめます。ここで方向がズレていたら、全章ズレたまま量産されます。一節で止めるのは、その保険です。

口調の見本には、自分が実際にしゃべった一文を使うのがいちばん早い。「この言い方は残して」と指定しておきましょう。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

楽しいムック本の文章にしてください。一文は短く。ボクが話した言い方と、面白がっているところを残してください。読者が次に試す場面を想像できるように書いてください。まず一節だけ見せてください。

3-2 「かったるい」を、上品にしない

「本を読むのがかったるい。だったらAIに渡して使えたらいい」

ボクがしゃべったこの話を、AIにそのまま整えてもらうと、こうなることがあります。

同じ内容なのに、別人になる

きれいだけど、誰の声？

読書に伴う認知的負荷を軽減し、知識活用の効率化を図ります。

→

残したいのは、この調子

本を読むのがかったるい。だったら、AIに渡して使えたほうが早い。

言っていることは、ほぼ同じ。でも、読んだときの温度がまるで違います。残したいのは情報ではなく、**何を面白がっているか**です。

もちろん、「その、なんだろうな」みたいな言いよどみまで全部残す必要はありません。言い直しは整理していい。でも「もう、読まなくていい」の間は残す。声をそのまま文字にすることと、話した感じを伝えることは、別の作業です。



丁寧にしすぎると、エンジン音が消えちゃうんだよね。

3-3 一文を短くして、前へ進む

一文に、理由も道具も条件も詰め込むと、読むほうの息が切れます。

たとえば「AIに原稿と表紙を作らせ、CSSで組版し、PDFを配布する」。やることは分かります。でも、この調子がずっと続くと、ただの手順の一覧です。

「まず、しゃべる。出てきた原稿に表紙を付ける。PDFを開くと、自分の話が一冊になっている」。同じ手順でも、場面が見えると急に試したくなります。

！ 短くするとき、条件は落とさない

「最短10分を目指す」を「必ず10分でできる」に縮めたら、それはもう別の話です。速さの面白さと、事実の正しさ。両方残します。

3-4 編集と校正も、順番に頼む

原稿ができたら、次は編集です。AIに「読者として」読んでもらいます。

編集で見てもらうこと

- ☐ 面白い話が、後ろのほうに埋まっていないか
- ☐ 同じ説明を、何度もしていないか
- ☐ 難しい言葉が、説明なしで急に出てこないか

そのあとで校正。誤字、名前、数字、リンクを確かめます。このとき話の筋まで勝手に変えられないよう、直した場所を見せてもらいます。

比べて見ると、ズレに気づける

元の発言	初稿	確認
「喋ったことをどんどん本に」	話したことを一冊ずつ本にする	言っていない実績を足していないか

▶ AIにそのまま言う COPY OK

原稿を編集してください。長い文と重複を減らし、読者が試したくなる流れに直してください。そのあと、名前・数字・出典を校正してください。意味を変えた箇所は、書き換えの前後を見せてください。

毎回、全文を頭から読み直す必要はありません。大きく変わった所を先に見る。気になる章だけ読む。そこで「ボクならこう言う」と一言返す。その一言が、次の編集の見本になります。

3-5 文章のSkillsにも、本の性格を伝える

キットには、k16shikanoさんの「japanese-tech-writing」を収録しています。説明の順番や段落のつながりを点検してくれるSkillです。取得時点のUnlicenseに従って、原文と案内も一緒に入れました。

このSkillにも「楽しいムック本にしたい」と伝えてください。正確でも退屈なら直したい。自分の声が消えていたら、元の発言を見せて戻してもらう。道具は、本の性格を知っていてこそ役に立ちます。

この章のまとめ

- ✓ 最初は**一節だけ**書いてもらい、声を合わせる
- ✓ 口調の見本は、自分がしゃべった一文
- ✓ 「かったるい」を上品にしない。**温度を残す**
- ✓ 編集→校正の順。直した場所は前後で見せてもらう



CHAPTER 04

04 CSSで、ムック本に組む

原稿ができたら、本のページにします。この作業が「組版」。見出しを大きくして、余白を取って、図の横に説明を置く。同じ原稿でも、組み方ひとつで本の印象はガラッと変わります。

この章でできること

- ✓ 小さなPDFを一枚出して、環境を確かめる
- ✓ テンプレートの部品で、ムック本らしい紙面にする
- ✓ ページを指さして、AIに直してもらう

4-1 原稿が、ちゃんと本のページになる

使うのは Vivliostyle。Markdown の原稿と、CSS という見た目の設定から、PDF を作ってくれる道具です。

CSS を全部覚えてから始める必要はありません。Codex にファイルを用意してもらい、出てきた PDF を見て「ここ直して」と言う。基本はそれだけです。

本文は文字のまま残るので、誤字が見つかったら原稿を直して出し直せばいい。画像の中の文字を描き直すより、ずっと更新しやすい作りです。表紙がまだなくても、本文から先に組み始められます。

4-2 まずは、小さな PDF を出してみる

いきなり全章を流し込む前に、短い原稿で一枚だけ出してみましょう。キットの最小ひな形には、原稿と CSS と組版の設定が入っています。

▶ AI にそのまま言う　COPY OK

同梱の最小ひな形で、見出しと二段落だけの PDF を作ってください。必要な道具がなければ教えてください。出力できたら、保存先と作り直す方法を残してください。

PDF が開けたら、あとは原稿を増やしていくだけ。動かなければ、表示されたエラーをそのまま AI に貼ります。画像が見つからないのか、組版の道具が動かないのか。短い原稿で先に確かめておくと、原因探しがぐっと楽になります。

4-3 「ワードの本」から、ムック本へ

この本の最初の紙面を見たとき、ボクは思いました。

「……ワードの本って感じだな」

文字が行儀よく並んでいるだけ。間違ってはいない。でも、めくって楽しくない。ページの下半分が真っ白なところもある。これではマッハの名が泣きます。

そこで、紙面を「部品」の組み合わせで作り直しました。いまあなたが読んでいるこのページも、その部品でできています。

この本の紙面を作っている部品

章扉
全面の絵、大きな章番号、この章でできること

AIへの依頼文
黒い枠。そのままコピーして使える

会話とひとこと
キャラのアイコン付き吹き出し

図解
流れ・カード・比較を、画像ではなくCSSで組む

囲み
ポイント、ちょい足し、つまずき、コラム

まとめ
章の終わりに、持ち帰る4行

ポイントは、**図解もCSSで組む**ことです。流れ図や比較表を画像にすると、文字の修正のたびに作り直しになります。CSSなら原稿の数行を書き換えるだけ。フォントも本文とそろいます。

同じ中身でも、組み方でこう変わる

ワードっぽい紙面

見出し、段落、見出し、段落。図はページの真ん中にぽつんと一枚。

→

ムック本の紙面

章扉で絵を大きく。依頼文は専用の枠。比較は横に並べ、流れは矢印でつなぐ。

4-4 部品は、テンプレートとして持ち帰れる

この紙面の仕組みは、**技術書テンプレート「mach-techbook」**としてキットに入れました。原稿はふつうのMarkdown。そこに、次のような記法を足すだけで部品になります。

```
:::prompt
ここにAIへの依頼文を書く
:::

:::flow title="作業の流れ"
- **話す** ネタをしゃべる
- **書く** AIが原稿にする
- **組む** PDFにする
:::

![図の説明](../assets/photo.png "side")
```

画像の後ろに書いた `"side"` や `"bleed"` が、配置の指定です。

画像の置き方は6種類

full 本文の幅いっぱい。いちばん基本	**bleed** 紙の端まで。見せ場の一枚に	**side** 右に置き、文章を回り込ませる
small 小さく中央に。人物や小物に	**page** 1ページまるごと。マンガ向き	**plain** 図番号なしの飾り

部品の一覧と記法は、巻末の付録にまとめました。技術書でも、趣味の本でも、色と書体の変数を変えれば自分の本の顔になります。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

templates/mach-techbookを使って、この原稿を組んでください。色は緑系、書体は明るいゴシックに変えてください。章扉には各章の挿絵を入れ、依頼文と図解は部品の記法で書いてください。まず数ページ見せてください。

4-5 縦書き？　横書き？　並べて決める

この本は横書きです。依頼文、URL、ファイル名がたくさん出てくるからです。「新書」という名前でも、縦書きにしなきゃいけない決まりはありません。

小説や、語りをじっくり読ませる本なら縦書きも似合います。迷ったら、同じ段落を両方で出してもらいましょう。言葉で相談するより、見比べたほうが一瞬で決まります。

横書き・左とじ

依頼文やURLと一緒に、手順を追いやすい。技術書向き。

→

縦書き・右とじ

語りをじっくり読ませる。エッセイや小説向き。

判型はA5から始めました。A4の紙を二つ折りにすれば、紙の本にもできるサイズです。ページ数を減らしたくて文字を詰める前に、まずは読みやすい大きさで組んでみてください。

4-6 PDFとEPUB、どっちを渡す？

同じ原稿から、両方出せます。違いはこうです。

PDF

紙面の形をそのまま渡す。印刷もできる。デザインを見てほしいならこっち。

→

EPUB

スマホで文字を大きくできる。画面に合わせて文章が流れ直す。

EPUBでは、横に三つ並べた図が狭い画面で縦並びになります。長い表は分けます。PDFと同じ原稿でも、配置は変えていい。テンプレートにはEPUB用のCSSも入っていて、そのあたりは自動で切り替わります。

出力できたら、目次を押す、文字を大きくする、図を開く。EPUBCheckの形式チェックも使いますが、読み心地は実際の読書アプリで確かめましょう。

4-7 直すときは、ページを指さして頼む

「この図の文字が小さい」「見出しだけ次のページに飛んでる」。気になったページはスクリーンショットごとAIに渡します。

全ページを小さく並べた一覧を作ってもらうと、真っ白なページや、文字ばかりのページが一目で見つかります。そこを開いて直す。出し直して、もう一度見る。この往復で仕上がっていきます。



全ページ並べると、スカスカなページが丸見えだよ。ワタシの目はごまかせない！

この章のまとめ

- ✓ まず**小さなPDF**を一枚。動いたら原稿を増やす
- ✓ 紙面は**部品**で作る。図解もCSSで組む
- ✓ テンプレート**mach-techbook**を持ち帰れる
- ✓ 全ページ一覧で、スカスカと文字ばかりを探す



CHAPTER 05

05 表紙も挿絵も、生成で描く

本は、見た目で手に取られます。表紙、挿絵、マンガ、ついでにマスコット。絵を描けなくても、頼み方さえ分かれば、ページはどんどん楽しくなります。

この章でできること

- ✓ 何の本か一瞬で伝わる表紙を作る
- ✓ 同じキャラクターに、いろんな場面を演じてもらう
- ✓ マンガには、台詞とコマの順番を先に決める

5-1 表紙は、一目で「何の本か」

この本の表紙では、サングラスの謎の男がマイクで熱唱するようにしゃべっています。その横で、AIマッハちゃんが猛烈な速さで本を描いている。

人間がしゃべって、AIが作る。それを、説明を読む前に絵で分かってほしかったんです。赤い背景に、でかい白文字。青いツインテールもなびかせて、とにかく速そうな一冊にしました。

実は最初、頭から本が飛び出す案もありました。脳みそからドーン、みたいな。でも途中で「やっぱりマイクのほうがいいかも」と方向転換しています。

最初の案にしがみつく必要はありません。見たい表紙に近づくまで、何度でも言い直せばいい。

最後に、小さく縮めて確認します。スマホの書店一覧では、表紙は切手くらいの大きさになります。縮めた瞬間に何の本か分からなくなったら、題字をもっと大きくしてもらいましょう。



図5-1 赤い背景にでかい白文字。人間がしゃべり、AIが描く。

5-2 文字ごと、画像生成で作る

今回は、文字を後から載せるのではなく、題字も含めて表紙を丸ごと画像生成しました。

▶ AIにそのまま言う　COPY OK

赤い新書の表紙を作ってください。書名は「しゃべってつくる AIマッハ新書」。コピーは「AI使って最短1時間！超爆速で出版しよう！」。人間がマイクで話し、AIマッハちゃんが高速で本を作る絵にしてください。著者名は入れないでください。

載せたい文字は、省略せずに一字一句そのまま渡します。本のサイズとキャラクターの基準絵も一緒に。仕上がったら、日本語が合っているかを一文字ずつ確かめます。見た目がどれだけ良くても、書名が間違っていたらアウトです。

＋ 直すときは「残すもの」も言う

題字を直してもらうと、絵まで変わってしまうことがあります。残したい顔、ポーズ、構図も一緒に伝えましょう。

5-3 新書っぽさは、配置から借りる

表紙の頼み方に迷ったら、配置の見本を使いましょう。キットには、新作の新書風テンプレートを４種類入れました。

横書き赤
題字を大きく横に。この本と同じ系統

縦書き生成り
余白を広く取った、落ち着いた新書

帯付き紺
下に帯を置いて、コピーを見せる

全面イラスト
絵を主役に、題字を重ねる

同じ絵でも、配置が変わるだけで本の顔は別物になります。

ai-dtpの見本も制作の参考にしました。ただし、手元で見られる素材を何でも配っていいわけではありません。読者に渡すキットには、再配布の条件を確かめたものだけを入れています。

5-4 なくても困らないけど、マスコット

ここからは寄り道です。でも、いちばん楽しい寄り道です。本の内容を、キャラクターにしてもらいましょう。

速く本を作るなら、速そうな子がいい。白と赤の角付きヘルメット。青いツインテール。赤いアメリカンバイク。ヘルメットのMは、炎がぼわっと立ち上がる感じで。

そうやって生まれたのが、AIマッハちゃんです。



図5-2 青いツインテールと炎のM。AIマッハちゃんの基準絵。



どうも、AIマッハちゃんです！　この本の案内役と、表紙と、ほぼ全部の挿絵をやってます！

表紙にいた子が、本文では原稿を書き、紙を折り、マンガでは案内役もする。同じ子がページをまたいで出てくると、本づくりがちょっと楽しくなります。

▶ AIにそのまま言う　COPY OK

この本の内容を擬人化してください。見た目とテーマがどうつながるかも教えてください。表紙と挿絵で使える、同じキャラクターの基準絵が欲しいです。

前に作ったコピー本の本では「コンビニ本ちゃん」も生まれました。製本道具の前にいる姿なら、何の本の子か一発で伝わります。



図5-3　コピー本づくりのマスコット、コンビニ本ちゃん。

5-5 同じ子に、いろんな仕事をさせる

基準絵が一枚あれば、挿絵はどんどん増やせます。話を聞く。原稿を直す。紙を折る。同じ子でも、場面ごとに違う姿を描いてもらえます。



話を聞く



原稿を直す



紙を折る

AIマッハちゃんなら、青いツインテールと炎のMは絶対に残す。服とヘルメットの色もそろえる。毎回バイクを大きく入れる必要はありません。

生成したら、基準絵と見比べます。顔や服が変わっていたら、その場所を指さして直してもらう。「同じ子で、次は紙を折っている場面を」。絵と指示をセットで渡して、場面を増やしていきます。

5-6 図も、生成で分かりやすくなる

AIが執筆して、編集して、組版する。こうやって言葉で並べるより、仕事場の絵にしたほうが伝わることがあります。



図 5-4 話す、書く、絵を作る、ページを組む。AIとの制作を仕事場にした一枚。

しゃべる人間の机。その横で原稿と絵を作るAI。奥ではページが本になっていく。工程が一枚の風景になると、「こんなことまで任せるのか」が一瞬で見えてきます。

一方で、用紙の寸法や数字を正確に伝えたい図は、生成画像には向きません。文字を直せる形式で作ります。雰囲気は生成で、寸法は線と数字で。使い分けましょう。

> **★ この絵で、何を伝えたい？**
>
> 作業の雰囲気を想像してほしいのか。形を見比べてほしいのか。読者に見てほしい所を一つ決めると、頼み方も自然に決まります。

5-7 マンガには、台詞を入れる

困っている人が、AIと本を作り始める。できた本を、次の人がAIに渡す。こういう「変化」は、マンガにすると伝わりやすくなります。

ただ、絵だけのマンガは、何をしゃべっているのか分かりません。この本も最初は台詞なしで作って、ボクが「台詞が欲しい」と注文しました。コマ割り、読む順番、台詞を先に決めてから描いてもらいましょう。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

本づくりの4コママンガを作ってください。先に各コマの出来事と台詞を見せてください。台詞が読める大きさで、AIマッハちゃんと人間の役割が分かるようにしてください。

裏表紙には、本とSkillsを受け取るQRも付けます。QRは絵として生成せず、URLから作って、実際にスマホで読み取って確かめます。読者に渡す準備は、次の章で。

この章のまとめ

- ✓ 表紙は**縮めても**何の本か分かるように
- ✓ 文字入りで生成するなら、**一字一句**確かめる
- ✓ 基準絵を一枚作れば、挿絵は増やせる
- ✓ 寸法は線と数字で。マンガは**台詞が先**



CHAPTER 06

06 読ませずに渡す。売り場へつなぐ

本ができた！　……で終わりにしないのが、AIマッハ新書です。読者が「自分もやりたい」と思った瞬間に、すぐ作り始められるように。本と一緒に、作る道具ごと渡します。

この章でできること

- ✓ 本・本文データ・Skillsを、同じ版のセットにする
- ✓ QRと紹介ページで、受け取り場所を作る
- ✓ 売るなら、時間の測り方とライセンスまで決める

6-1 本だけじゃなく、道具も付ける

PDFを渡して終わり、にはしません。本文データとSkillsも一緒に渡します。

読者が「同じことをやってみたい」と思ったとき、本を最初から読み直す必要はありません。キットをAIに渡して、自分の題材を話せばいい。

同じ版の三点セット

PDF	Markdown	Skills
読める本。そして紙面の見本	AIが参照しやすい本文	作業の手順書

一冊が、次の一冊へ



入口には「START-HERE.md」を置きます。何を読んで、どう始めればいいかをAIに伝えるファイルです。フォルダの中にファイルが山ほどあっても、最初の一枚が分かれば迷いません。

6-2 「これでボクの本も作って」

たとえば、趣味の写真整理について本を作りたい人がいるとします。会話はこのくらいから始まります。

読者
このキットで、写真整理の本を作りたいです。ボクが試している方法を話します。

読者

AI

AI
誰向けの本ですか。見せられる写真はありますか。

読者
スマホの写真が増えすぎて困っている人向け。自分の写真で説明できます。

読者

AI

AI
では、困っている場面から始めましょう。まず、いちばん効いた整理法を一つ話してください。

AIはキットの手順を使って、あなたの話から企画を立てます。この本の体験談をコピーする必要はありません。渡すのは、自分が試したことと、自分の写真です。

紙面も参考にできます。「このくらい絵を入れたい」「この見出しはもう少し小さく」。数ページ眺めて、好きなところを伝えるだけでもいい。通読しなくても、使い道はいくらでもあります。

6-3 QRの先に、受け取り場所を作る

裏表紙のQRは、配布ページにつなぎます。ファイルそのものではなく、案内ページのURLを入れるのがコツです。ZIPの名前が変わっても、印刷済みのQRをそのまま使い続けられます。

裏表紙から、制作キットへ

QR・URL
紙は読み取る。PDFはリンクを押す

▶

特設ページ
版と中身を確かめて選ぶ

▶

制作キット
PDF・本文・Skillsを同じ版で

スマホで読んでいる人は、同じ画面のQRを撮れません。押せる文字のURLも必ず添えましょう。

更新するときは、本とSkillsの版をそろえます。「本文だけ新しくて、手順が古い」を防ぐためです。変更点を添えて、一式まとめてダウンロードできるようにします。

6-4 紹介ページも、AIに作ってもらう

表紙、本文、挿絵。紹介サイトの材料は、もう全部そろっています。AIに本を渡して、紹介とダウンロードをまとめたページ（LP）を作ってもらいましょう。

紹介ページに置くもの

- [ ] 何ができる本か、一行で
- [ ] 中身の雰囲気が分かる試し読み
- [ ] 何が付いてくるか
- [ ] 迷わず押せるダウンロードボタン

この本のLPでは、ダウンロードボタンから炎が出ます。マッハなので。こういう遊びも、本の雰囲気に合わせて頼めます。

！ 遊んでも、押せなきゃ意味がない

炎で文字が読めない。スマホでボタンが押せない。これでは本末転倒です。遊んだら、必ず実機で触って確かめましょう。

6-5 最短10分、その先は売り場へ

売りたい人は、売り場の準備もAIに頼めます。紹介文、商品画像、配布ZIP。できた本をもとに、まとめて作ってもらえます。

ここで、時間の話を正直にしておきます。

目標と実測は、分けて記録する

- **0分** 依頼スタート
- **10分** 最短の制作目標。環境と素材がそろっている場合
- **60分** 販売開始の目標。売り場と価格が決まっている場合
- **それ以上** 初回の設定、追加の取材、審査の待ち時間

計画の図です。すべての本が同じ時間でできる保証ではありません。

販売まで1時間を狙うなら、売り場と価格は先に決めておきます。ログインや審査の流れはサービスごとに違いますし、AIが操作できる範囲も先に確かめておく必要があります。

原稿ができた時刻、PDFができた時刻、販売を始めた時刻。これを分けて記録しましょう。どこが速くなったかが分かれば、次に省ける準備も見えてきます。

6-6 再利用してもらうなら、条件もセットで

この本は、中身まるごと再利用できる形にしています。本文、図版、表紙、AIマッハちゃん、コード、Skills、技術書テンプレート。まとめてMITライセンスです。

MITの条件はシンプルで、コピーや改変版を配るときに、著作権表示とライセンス文を残すこと。商用利用も改変もOKです。ただし、第三者のSkill、フォント、旧本の資料には別の条件があります。配布物のライセンス案内を確かめてください。

> **Vivliostyleのライセンスは本に付かない**
>
> Vivliostyleで組んだからといって、本そのものにエンジンと同じライセンスが付くわけではありません。詳しくは公式FAQで確認できます。キットにはエンジン本体を入れず、必要な依存として取得する形にしています。

最後に、配布ZIPを自分で開けて中を見ます。元の音声、私的なメモ、認証情報が紛れ込んでいないか。読者に渡すものだけを、一つのフォルダに集めましょう。

6-7 出した後も、どんどん直せる

読者が止まった場所は、次の版へのヒントです。説明が足りなかったのか。画面が変わったのか。環境が違ったのか。

原因が分かったら、本文やSkillsに戻して直します。同じ原稿から本を出し直し、配布物も差し替える。出したら終わり、ではなく、出してからが本番です。マッハ新書の「出してから育てる」は、ここでも生きています。



そして電子書籍ができたら、紙にもできちゃう。次、行ってみよう！

この章のまとめ

- ✓ PDF・本文・Skillsを**同じ版**で渡す
- ✓ QRは**案内ページ**へ。文字のURLも添える
- ✓ 時間は**目標と実測を分けて**記録する
- ✓ 配る前にZIPを開けて、余計なものを抜く



CHAPTER 07

07 紙の本にもしちゃう

PDFができたら、紙にもできます。イベントで手渡す。机に並べる。誰かに一冊あげる。画面の中の本が、手で持てる重さになる瞬間は、けっこう感動します。

この章でできること

- ✓ 読む用と印刷用のPDFを分ける
- ✓ コンビニで一冊だけ刷って、折って留める
- ✓ 印刷所に頼むときの仕様を、AIに一枚にしてもらう

7-1 画面の一冊を、机に置く

原稿は同じでも、読む用のPDFと印刷用のPDFは分けておきます。印刷先によって、余白、色、表紙の寸法が変わるからです。

紙の端まで絵を出したいなら「塗り足し」も必要です。裁断でズレても白いすき間が出ないよう、外側に余分に絵を伸ばしておく部分のことです。

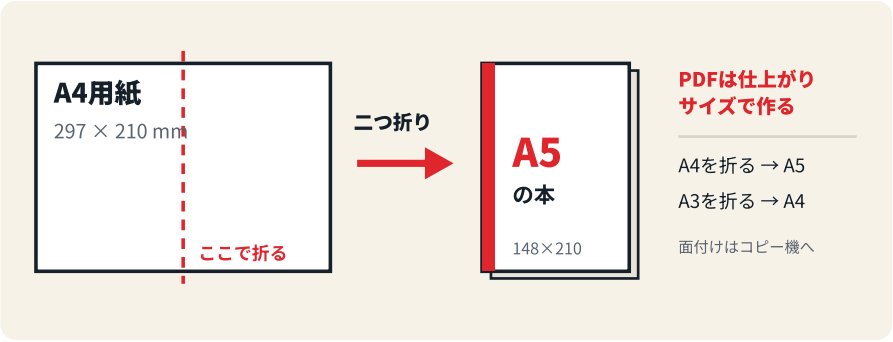


図7-1 A4用紙を二つ折りにすると、A5の本になる。

A5の中綴じ本なら、A4の紙を二つ折りにします。A4の本を作りたいならA3です。本の1ページの大きさと、機械に入れる紙の大きさは違う。ここ、最初は必ず混乱します。ボクもしました。

「このPDFを、ここで印刷したい」とAIに伝えましょう。印刷先の公式案内も一緒に渡せば、入稿用データの条件を確認しながら作ってもらえます。

7-2 コンビニで、一冊だけ刷ってみる

いきなり印刷所に頼む前に、まずはセブン‐イレブンの小冊子プリントで一冊試してみましょう。用意するのは、読む順に1ページずつ並んだ普通のPDFです。

コンビニ印刷の流れ

01 **用紙を決める** A5仕上がりの横書きなら、用紙はA4、左とじ

02 **PDFを送る** 使うアプリの案内に従って、店頭へ転送

03 **設定を確認** 小冊子、用紙、色、とじ方向

04 **プレビュー** 先頭から最後まで目で追う

05 **一冊だけ刷る** 料金を見て、まずは一冊

ページを印刷用に並べ替える作業を「面付け」と呼びます。これは対応するコピー機がやってくれます。

> **！ 面付けは二重にかけない**
>
> 自分で並べ替えたPDFに、さらにコピー機の小冊子設定をかけると、ページの順番がぐちゃぐちゃになります。並べ替える前の、単ページのPDFを必ず残しておきましょう。

> **★ ページ数と容量は、送り方ごとに確認**
>
> 公式の小冊子ガイドでは、PDF等は99ページまで、画像は32ファイルまで。netprintの容量条件は、また別に確認します。「画像32枚」と「PDF32ページ」を取り違えないように。

前の本とページ数やカラーが違えば、印刷代も変わります。試し刷りの一冊は、「次に何冊作るか」を決めるための見本にもなります。

7-3 折って、留めたら、本になる

中綴じのページ数は、表紙も含めて４の倍数にします。紙１枚の表と裏に、４ページぶん入るからです。32ページなら８枚、64ページなら16枚。厚くなるほど、折りにくくなります。

刷った紙をそろえて、真ん中で折る。折り目に沿って留める。これで小冊子の完成です。中綴じ用のホチキスがあれば、それを使うのがいちばん楽です。

持っていなければ、180度開くホチキスと消しゴムでもいけます。

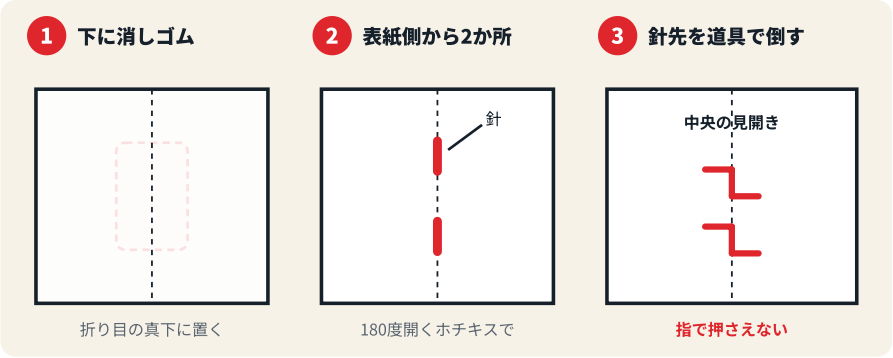


図7-2 消しゴムを下に置き、表紙側から針を通す。

01 **紙を置く** 開いた本の折り目の下に、消しゴムを置く

02 **針を通す** 表紙の外側から、折り線上の２か所に打つ

03 **針を倒す** 消しゴムから外し、中央の見開きに出た針先を道具で倒す

！ 指で押さえない

針先は、指ではなく道具で倒してください。そして、開かないタイプのホチキスを無理やりこじ開ける方法ではありません。

閉じて、1ページずつめくってみましょう。順番は合っているか。内側の文字が読めるか。針先が引っかからないか。画面では気づかなかったことが、紙だと一瞬で見えてきます。



初めて自分の本をめくるとき、ちょっと手が震えるよ。ホントに。

7-4 キンコーズに、印刷と製本を頼む

紙を選びたい。もっときれいに綴じたい。でも全部自分でやるのは大変。そんなときは、印刷と製本をお店に頼めます。

キンコーズには、同人誌・コピー本向けの案内があります。PDF入稿が推奨されていて、オンラインで送ったデータをもとに店舗と相談する流れも用意されています。

注文の前に、AIに仕様を一枚にまとめてもらいましょう。判型、ページ数、色、とじ方向、表紙の紙、部数、受け取りたい日。

▶ AIにそのまま言う COPY OK

印刷の相談用に仕様を整理してください。A5、横書き、左とじです。本文は白黒、表紙はカラー。ページ数はPDFから確認し、まだ決めていない項目は空欄にしてください。

背幅や塗り足しは、商品と店舗の指示に合わせます。見積もりでは、紙と印刷だけでなく、製本や配送の費用も確認してください。

7-5 しまうま出版へ、データを送る

データを入稿して、製本された一冊を届けてもらう方法もあります。しまうま出版なら、文章中心の本は「小説」の仕様が候補です。公式案内には、技術書も用途として挙がっています。

商品とサイズを決めたら、ページ数に合うテンプレートを使って、本文と表紙を別々に用意します。最後にプレビューで確認。

紙にする３つの方法

自分で作る

コンビニで刷って、折って留める。読む順の単ページPDFを用意。

→

お店・印刷所に頼む

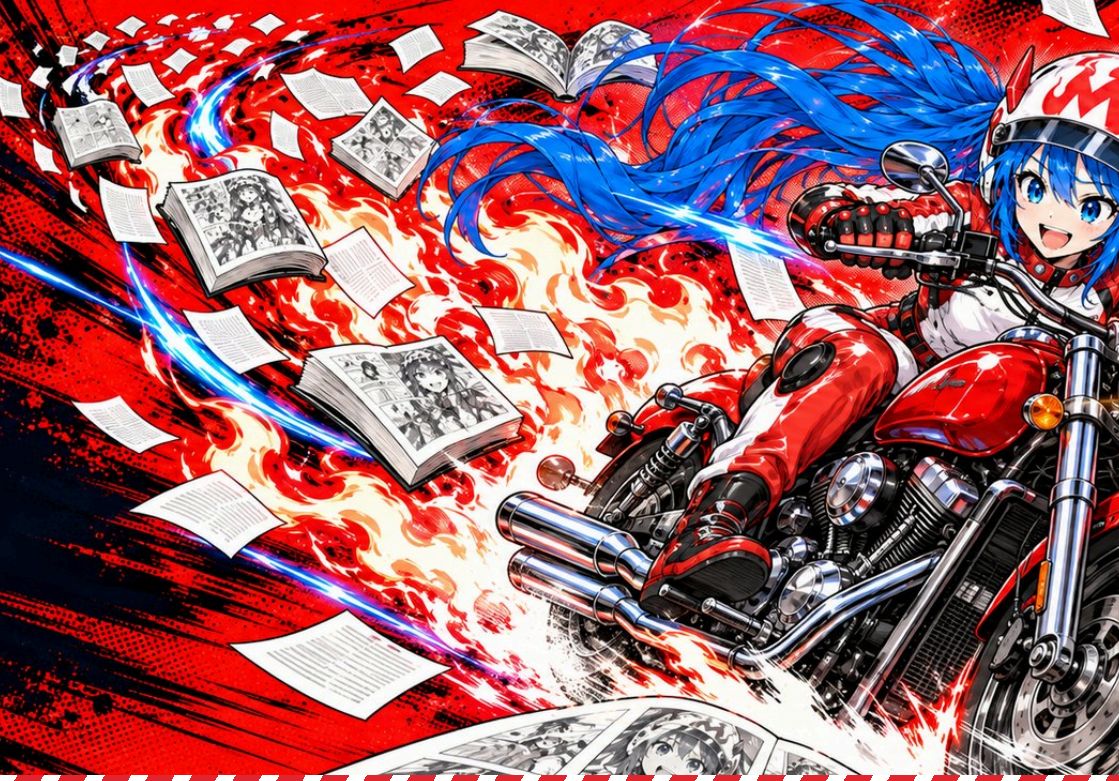
キンコーズやしまうま出版へ。仕様の依頼票と、商品ごとの入稿データを用意。

コンビニ用のデータを、そのまま別の印刷先に送れるとは限りません。本文の色、表紙の寸法、背幅。選んだ商品の条件に合わせて作り直します。

印刷と配送には、それなりに日数がかかります。電子書籍の10分や1時間とは別の時計です。手元に届く日を楽しみに待つのも、紙の本の工程のうちです。

この章のまとめ

- ✓ 読む用と**印刷用のPDF**は分ける
- ✓ 面付けはコピー機に任せる。**二重にかけない**
- ✓ 中綴じは**4の倍数**。針先は道具で倒す
- ✓ お店に頼むなら、仕様を**一枚**にまとめてから



CHAPTER 08

08 コンビニコピー本から、この本へ

この本には、お兄さんがいます。コンビニで刷れる32ページのコピー本です。そこで覚えたことが、どうやってこの一冊につながったのか。そして「10分だべったら本になった」の中身を、正直に話します。

この章でできること

- ✓ 最初の一冊から、何を持ってきたかを見る
- ✓ 作る材料ごと、配布フォルダに置く
- ✓ 出てきた本に、遠慮なく注文をつける

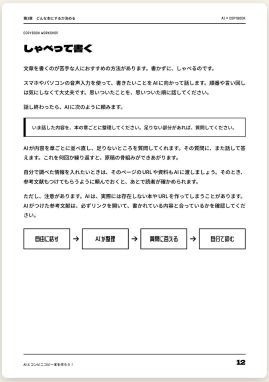
8-1 最初の実例は、コンビニで刷れる本

『AIとコンビニコピー本を作ろう！』。この企画の元になった、32ページの本です。AIに相談しながら原稿と図を作り、VivliostyleでPDFにしました。

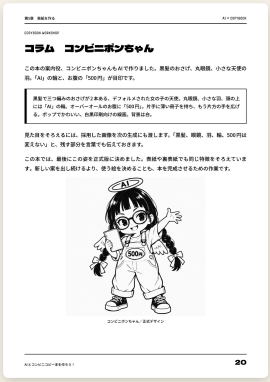
A4、白黒、本文28ページ。そこに表紙、目次、奥付、裏表紙を足しています。読む用のPDFと印刷用のPDFを分けて、編集できるデータも残しました。



表紙／PDF p.1



しゃべって書く工程／PDF p.14

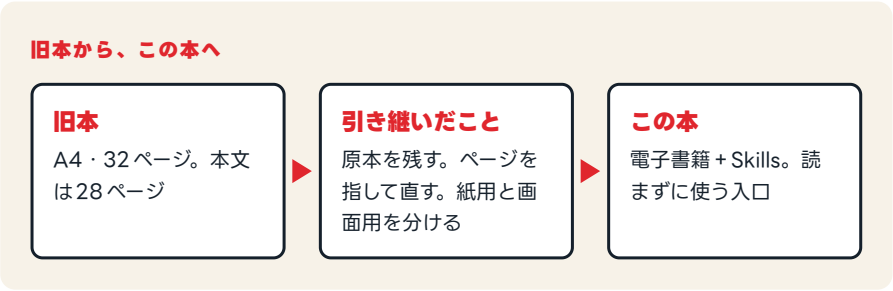


マスコット紹介／PDF p.22

小さな一冊でも、本づくりの仕事はひととおり体験できます。見本の中の料金や環境は、旧本を作った当時のものです。これから印刷するなら、利用先の最新の条件を確認してください。

8-2 作ったものが、次の本の材料になる

旧本から持ってきたのは、原稿や絵だけではありません。



逆に、そのままでは使えない部分もありました。32ページ専用の設定や、ボクのパソコンにしかないフォルダの場所。これを他の人の環境に持っていっても動きません。

そこで、必要な道具とファイルの置き場所を整理し直しました。読者の環境でも、キットの中のファイルだけで始められる形にしています。

一冊作ると、次の一冊が少し楽になる。作るたびに使える材料が増えていく。この作り方のいちばん面白いところは、たぶんここです。

8-3 Driveに、作る材料ごと置いておく

旧本のデータは、Google Driveの「コンビニコピー本」フォルダにまとめました。読む用のPDF、印刷用のPDF、編集用のZIP、プロンプト、印刷のREADME。受け取った人がそのまま使えるものを並べています。

自分の本でも、配布専用のフォルダを作っておくと便利です。最初に読むREADMEを置いて、どのファイルを使えばいいか案内します。制作途中の私的なメモは、別の場所へ。

広く配るなら、共有設定を「リンクを知っている全員」「閲覧者」にします。組織のアカウントだと使えない場合もあります。ダウンロードが許可されているかも見ておきましょう。

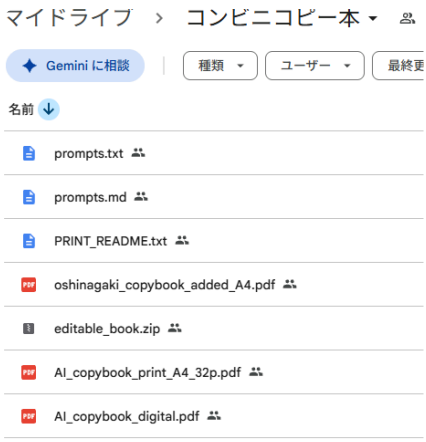


図8-1 旧本の配布フォルダ。本と編集データ、プロンプト、印刷案内をまとめて渡す。

最後に、ログアウトしたブラウザで自分のリンクを開いてみます。自分には見えていても、他の人には見えていないことがよくあるからです。

8-4 10分だべったら、本になった

さて、タイトルの話です。

AIをフル活用すれば、人間が30分くらい作業するだけで一冊作れるんじゃないか。そう思って試してみたんです。

そうしたら、10分だべって本になりました。



ほらね！

真なるマッハに近づいたな、と思いました。

念のため正直に言っておくと、この10分はボクがしゃべった時間です。AIが生成している時間や、そのあと直した時間は別です。それでも、しゃべった話が原稿になって、絵が付いて、本になる。全部自分で書いていた頃とは、進み方がまるで違います。

しかも、PDFとSkillsまで付けてしまえば、読者もAIに渡して使える。作る方だけじゃなく、読む方までマッハになるわけです。

もはや本は、楽しむ目的以外で読まなくていいのでは。そんな説が有力です。

8-5 出てきた本に、遠慮なく注文する

完成形を最初から全部説明できなくて大丈夫です。実物を見たほうが、言いたいことは出てきます。

ボクがこの本に出した注文は、だいたいこんな感じでした。

注文すると、紙面が変わる

ボクが言ったこと	AIがやったこと
「文字ばっかり」「マンガに台詞が欲しい」「旧本の見本、そんなに大きくなくていい」「ヘルメットのM、もっと炎が立つ感じで」「ワードの本って感じだな」	工程を図にして挿絵を増やす。台詞と読む順番を入れる。見本を三つ小さく並べる。Mの炎を描き直す。紙面を部品で組み直す。

細かいCSSの指定は、一度もしていません。見て、どうしたいかを言っただけです。CSSや画像をどう直すかは、AIに考えてもらいました。

「ここがこうなったら楽しそう」。それが言えれば、次の案はAIが作ってくれます。作業は全部任せても、**何を面白がるかまで手放す必要はありません。**

8-6 次は、あなたの話で一冊

質問のしかたも、文章の口調も、表紙の頼み方も、紙面の部品も。うまくいったやり方は、Skills とテンプレートに残しました。次の本は、そこから始められます。

この本で紹介した旧本の作例は、PDF 制作と製本の手順までです。店頭での試し刷りレポートは入っていません。紙にするなら、ぜひ一冊刷って、自分だけの見本を作ってください。

題材が変われば、表紙もキャラクターも変わります。趣味の話でも、仕事で覚えたことでも、最近作った変なものでもいい。

キットを AI に渡して、「次はこれを本にしたい」と話してみてください。次に表紙が付くのは、あなたの話です。

この章のまとめ

- ✓ 一冊作ると、**次の一冊の材料**が増える
- ✓ 配布フォルダは、ログアウトして**開けるか確認**
- ✓ 「10 分」は**しゃべった時間**。生成と修正は別
- ✓ 注文は、見て思ったことを**そのまま言う**



APPENDIX

AP 次の一冊に持っていく道具箱

全部入りキットに入っている、14本のSkillsと技術書テンプレート「mach-techbook」の早見表です。困ったときに引く辞書として使ってください。

この章でできること

- ✓ **任せたい仕事から、Skillsを選ぶ**
- ✓ **テンプレートの部品と記法を引く**
- ✓ **止まったとき、配る前に確認すること**

A-1 仕事ごとに、Skillsを選ぶ

それぞれのSkillには、渡す材料、作るもの、確認の手順を書いてあります。迷ったら入口の make-mach-book から。

Skill	使う場面
make-mach-book	キットを受け取り、一冊の制作を始める
interview-to-book	本人の話を整理し、足りない所を聞き返す
research-book-sources	外部資料、確認日、引用範囲を整理する
draft-book	発言と資料から、章の初稿を書く
edit-book	口調、順序、重複、事実の対応を直す
plan-book-visuals	どこに何の絵や図が要るかを決める
design-book-mascot	本の特徴を擬人化して基準絵を作る（任意）
illustrate-book	基準絵から挿絵を作る
make-book-comic	台割り、台詞、コマ順を決めてマンガにする
design-shinsho-cover	新書風テンプレートを参照して表紙を作る
typeset-book	原稿とCSSからPDF・EPUBを出力する
check-book	全ページ、目次、リンク、版を確かめる
package-book	本・Skills・権利表示を配布物にする
japanese-tech-writing	日本語の技術的な説明を点検する

まずはファイルとしてAIに読んでもらえばOKです。いつも使えるように登録する手順は、START-HERE.mdで案内しています。

A-2 テンプレート「mach-techbook」の部品

この本の紙面は、すべて templates/mach-techbook で組んでいます。原稿はMarkdown。`:::名前` 〜 `:::` で囲むと、部品になります。

記法	何になるか
`:::prompt`	AIへの依頼文。黒い枠で「COPY OK」付き
`:::point` `:::tip` `:::warn` `:::note`	ポイント、ちょい足し、つまずき、メモ
`:::column`	長めのコラム
`:::talk`	「名前: 台詞」を1行ずつ。アイコン付き会話
`:::say 名前`	キャラのひとこと吹き出し
`:::steps`	番号付き手順。「- **見出し** 説明」
`:::flow`	矢印でつなぐ流れ図。3〜4項目
`:::cards`	カード並べ。cols=2 か 3
`:::compare`	「### 見出し」で区切って左右比較
`:::timeline`	時間の流れ。note= で注記
`:::check`	チェックリスト
`:::gallery`	画像を横に並べる。cols=3
`:::summary`	章末のまとめ

記法	何になるか
`:::toc`	目次。ページ番号は自動

章扉は、見出しの直後に `:::opener art=画像のパス` を置きます。中の文章がリード文、箇条書きが「この章でできること」になります。章番号、図番号、節番号、柱、ツメ（ページ端の章番号）は自動です。

色と書体を変えるだけで、別の本になる

変数を書き換える

自分のCSSで --accent（章番号や見出しの色）、--blue、--mark、--font-body を上書きする。

→

判型を変える

print.css の @page size と --page-w、--page-h を合わせて直す。

組み方はこの3行です。

```
node templates/mach-techbook/build.mjs book.config.json
npx vivliostyle build book.html -o output/book.pdf
python templates/mach-techbook/contact_sheet.py output/book.pdf qa
```

最後の1行で、全ページの縮小一覧ができます。スカスカのページや、文字ばかりのページを探すのに使ってください。

A-3 止まったら、この記録を渡す

途中で作業を止めるときは、できたことと残りの作業を STATUS.md に書いてもらいます。再開するときは、その記録を渡すだけ。

▶ **AI にそのまま言う** COPY OK

STATUS.md と最新の検査結果を読んで、続きを進めてください。完了した工程はやり直さず、残っている問題を一つずつ直してください。原本と修正前の出力は残してください。

A-4 配る前の確認

配布チェックリスト

- [ ] PDF は全ページ、EPUB は目次と文字拡大を確認した
- [ ] QR とリンクを、実際に開いた
- [ ] ZIP を展開して中身を見た
- [ ] 書名・版・本文・Skills・ライセンスがそろっている
- [ ] 問題はページ番号と一緒に記録した。未確認のことも書いた

参考資料と奥付

マッハ新書の背景

BOOTH「マッハ新書を読もう！」　はじめにで紹介した、速く出して、公開後も育てていく本の出し方。

文章・組版・再利用

k16shikano「japanese-tech-writing」とライセンス案内　第３章で紹介した、文章を点検するSkill。

Vivliostyle CLI「特殊な出力設定」　第４章のPDF・EPUB出力。

Open Source Initiative「The MIT License」と Vivliostyle License FAQ　第６章の再利用条件と、組版ソフトウェアのライセンス。

印刷・配布

小冊子プリント公式手順と公式小冊子ガイド（PDF）　第７章のコンビニ印刷。ページ数とファイル数の条件もこちら。

キンコーズ「同人誌・コピー本」としまうま出版「小説」仕様　第７章の印刷・製本サービス。

Google Drive「ファイルを共有する」　第８章の配布フォルダの共有設定。

奥付

書名：しゃべってつくる AIマッハ新書

著者：KAGEKIN　／　制作：AIとの共同制作。発言の編集、図版生成、組版、検証にAIを使用。

版：0.4.0　／　2026年9月26日 オープンソース版。情報確認日：2026年9月25日。

ライセンス：MIT License（Copyright (c) 2026 KAGEKIN）。本文、本書用の図版・表紙・キャラクター、コード、Skills、技術書テンプレートが対象です。旧本の紙面、コンビニ本ちゃん、Drive画面は掲載用の提供資料で、MITの対象外です。第三者Skillとフォントは同梱の権利表示に従います。

原稿と組版ソース：h2f.jp/noai/ai-mach-shinsho/#download

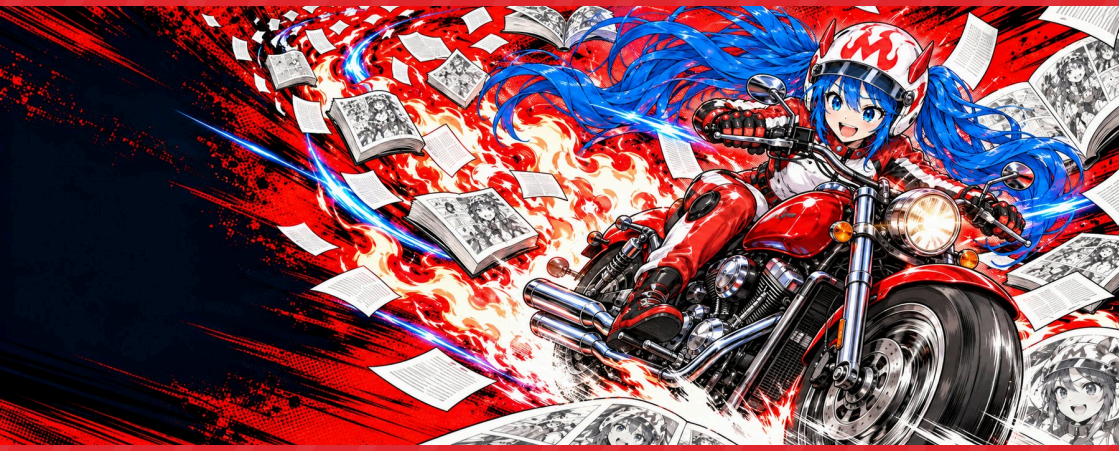
電脳AIクラブ：h2f.jp/noai/

「最短1時間」は、必要な環境と素材がそろった経路での出版を目指す表現です。本書の制作時間や、すべての利用環境での達成を保証する数字ではありません。

AI MACH SHINSHO

この本は、読まなくていい。

AIに渡して、次の一冊をつくろう。
本を読みたくない人向けのPDF・Skills付き！



PDF・EPUB・本文データ
Skills・技術書テンプレート
h2f.jp/noai/ai-mach-shinsho/

v0.4.0 ／ 本文・図版・Skills・テンプレートまでMITライセンス。
電脳AIクラブ